

名門高校の校風と人脈

83

市岡高校 (大阪府立・大阪市港区)

高校野球の発展に貢献 直木三十五、パナソニック社長

なったこともある。

広岡は社業を背景に夏の甲子園大会の発展に寄与した。日本学生野球協会会長にもなり、野球の五輪正式参加に貢献した。

佐伯と広岡は「野球殿堂入り」をしている。さらに、田中勝雄と伊達正男が殿堂入りしている。田中は早大の外野手として活躍し、日本最初の本格的ホームラン打者とうたわれた。伊達も早大で捕手、投手として活躍した。一つの高校から4人も殿堂入りしているのは、異例である。

『海ゆかば』

野球では4人のほか、巨人の選手・コーチをした南村侑広、高橋ユニオンズの選手・監督をした笠原和夫、南海ホークスの選手・監督をした蔭山和夫らも卒業生である。

78 (昭和53)年に市岡高校からドラフト2位でヤクルトに入団した南秀憲は、ヤクルト、近鉄で投手をした。引退後は、大阪市内で司法書士事務所を開いている。プロ野球選手の二毛作として司法書士になったのは珍しい。

サッカー部も6回の全国大

数授業が実施されている。

校是は「自強の精神」である。志や夢に向かって自らが自分自身を励まし、たゆまぬ努力を怠らない精神、といった意味である。

校舎の中庭にはそれを象徴する「自強の鐘」が設置されている。86 (昭和61)年に、同窓会が創立85周年記念として寄贈した鐘だ。朝夕に自動的に打鐘される。

高校野球とすこぶる縁の深い学校である。硬式野球部は3本線が入った帽子がトレードマークで、春夏の全国大会に計21回 (春11回、夏10回) 出場している。

夏の地方大会に1915

(大正4)年の第1回大会から「皆勤」している高校は全国に15校ある。市岡はその一つで大阪府内では唯一である。2013年夏の大阪府大会で、夏通算202勝を達成した。

大会出場の数だけが誇りではない。市岡高校の卒業生には、高校野球の発展に尽力し、今日の甲子園人気をもたらした人物がいる。

日本高等学校野球連盟の第3代会長を務めた佐伯達夫が、その代表格である。旧制市岡中―早稲田大の3塁手で、大正初期に活躍し、戦後に高野連会長になった。『高校野球

大阪港を擁する海の玄関口にある港区。市岡高校は港区の中心にある。

前身は、1901 (明治34)年に大阪府第七中学として創立された。大阪市内の旧制中学としては3番目だった。すぐに府立市岡中学と改称され、戦後の学制改革で男女共学の市岡高校となった。

『佐伯天皇』

現在は、全日制普通科単位制になっている。多様化する大学入試に対応できるよう100を超える選択科目が用意され、多くの教員による少人



佐伯達夫



中山麗敏

出場経験がある。代表選手は川本泰三で、ベルリン、メルボルン五輪に出場、日本サッカー殿堂入りもしている。自転車ロードレース選手では、阿部良之が00年のシドニー五輪に出場している。82年生まれの中山麗敏は、女子競輪選手である。「文」でも、著名な人物を輩出している。明治から昭和初期にかけて小説家、脚本家、映画監督として鳴らした直木三十五が卒業している。文学賞として芥川賞と並ぶ権威がある「直木賞」は、彼の名前に由来する。「測量船」などの作品を残し、第一級の詩人となった三好達治は、市岡中を2年で中退し、大阪陸軍地方幼年学校に移った。

現在活躍中の脚本家、作家ではジェームス三木と、小説家の柴崎友香（73年生まれ）も学んだ。柴崎は、芥川賞候補に3回もノミネートされている。SF作家の谷甲州、放送作家・小説家の稲見一良らもOBである。「海ゆかば」で知られる作曲家の信時潔は、校歌、社歌の作曲も多く、その数は1000曲を超える。市岡高校の文化部では吹奏楽部の活躍が目覚ましい。大阪フィルハーモニー交響楽団には、吹奏楽部OBの中村巧美（打楽器）と、野瀬遼太郎（事務局）の若手2人が所属している。また、吹奏楽部OBではないが、バイオリンの橋本安弘もいる。

登山家経営者



直木三十五

画家では、大正から昭和初期の洋画家である小出栖重がいた。女優の岩本多代、声優の植田佳奈、グラビアアイドルの田中涼子、漫画家のカネシゲタカシもOG、OBである。経済界で活躍している人物としては、パナソニック社長、会長を務めた大坪文雄の知名度が高い。大坪は社長在任中の08年に社名を松下電器産業からパナソニックに変更した。また、三洋電機を子会社にした。ただ、世界的な金融危機によるデジタル家電の売り上げ低迷や、韓国、台湾の追い上げによりパナソニックの業績は不振に陥り、未曾有のリストラを余儀なくされた。IT企業の経営者になった卒業生も出ている。日本オラルのトップになった新宅正明と、5期後輩でアップルジャパン代表を務めた山元賢治の2人である。川並和幸は、旅行予約サイトのたびゲーター社長をしている。辻巖は、塗料のロックペイントを創業した。04年に101歳で大往生を遂げた。能村龍太郎は、膜構造建築物のメーカーである太陽工業を、独自の輸出企業に育て上げた。



大坪文雄

大阪のゼネコン・今西組の3代目社長をした今西寿雄は、登山家として知られる。56（昭和31）年に日本山岳会第3次マナスル登山隊に参加し、シエルパと共にヒマラヤ・マナスル（8163m）世界初登頂に成功した。山本和二郎（池貝鉄工）、松原治（紀伊屋書店）、瀧省一（関西銀行）、手塚昌利（阪神電気鉄道）らも、市岡高校卒である。

社交ダンスの父

学者・研究者では、動物学者の亀崎直樹が神戸市立須磨海浜水族園園長をしている。その名のとおりウミガメの研究に力を注いでいる。山下東子はマグロなどの魚の経済学が専門。シカゴ大学経済学修士卒である。日本経済史の宮本又次、東洋史の石浜純太郎、西洋経済史が専門で和歌山大学長をした角山栄らもOBである。理系では、工学者で大阪大総長をした岡田實、宇宙物理学者の富田憲二、ロボット工学が専門で工学院大学長をした三浦宏文、細胞生物学の目加田英輔、原子核物理学が専門でフンボルト賞を受賞している土岐博らがいる。医学者では、公衆衛生学が専門の田宮猛雄が、日本医師会会長や国立がんセンター総長を務めた。脳神経外科医の知秀史郎は、日本で数少ないてんかんの専門医である。生理学者の岡芳包は、徳島大学長をした。新宗教系教団「生長の家」の創始者である谷口雅春も、旧制市岡中を卒業している。早稲田大を中退し大本教の専従活動家となったが、30（昭和5）年に神道、仏教、キリスト教に現代科学を加味したとする「生長の家」を立教し、多くの信者を獲得した。「社交ダンスの父」と呼ばれ、日本におけるモダンダンス、タップダンスの草分けである中川三郎も卒業生である。関西学院大、関西大、同志社大、立命館大など関西の私立大学に進学する生徒が多いが、13年には大阪大3人、神戸大2人など国公立大学に計47人が合格している。（猪熊建夫・ジャーナリスト（敬称略）、会社名・肩書などは当時。次回は福井県立藤島高校）

卒業生の中には、動物学者の亀崎直樹が神戸市立須磨海浜水族園園長をしている。その名のとおりウミガメの研究に力を注いでいる。山下東子はマグロなどの魚の経済学が専門。シカゴ大学経済学修士卒である。日本経済史の宮本又次、東洋史の石浜純太郎、西洋経済史が専門で和歌山大学長をした角山栄らもOBである。理系では、工学者で大阪大総長をした岡田実、宇宙物理学者の富田憲二、ロボット工学が専門で工学院大学長をした三浦宏文、細胞生物学の目加田英輔、原子核物理学が専門でフンボルト賞を受賞している土岐博らがいる。医学者では、公衆衛生学が専門の田宮猛雄が、日本医師会会長や国立がんセンター総長を務めた。脳神経外科医の知秀史郎は、日本で数少ないてんかんの専門医である。生理学者の岡芳包は、徳島大学長をした。新宗教系教団「生長の家」の創始者である谷口雅春も、旧制市岡中を卒業している。早稲田大を中退し大本教の専従活動家となったが、30（昭和5）年に神道、仏教、キリスト教に現代科学を加味したとする「生長の家」を立教し、多くの信者を獲得した。「社交ダンスの父」と呼ばれ、日本におけるモダンダンス、タップダンスの草分けである中川三郎も卒業生である。関西学院大、関西大、同志社大、立命館大など関西の私立大学に進学する生徒が多いが、13年には大阪大3人、神戸大2人など国公立大学に計47人が合格している。（猪熊建夫・ジャーナリスト（敬称略）、会社名・肩書などは当時。次回は福井県立藤島高校）